

平成29年度香川大学大学院入学式学長告辞

本日、香川大学大学院に入学される285名の皆さん、誠におめでとうございます。

この入学式に列席している理事、副学長、研究科長及び教職員とともに、皆さんの入学を心から歓迎いたします。

皆さんは、大学の学部での専門分野をさらに追究しようという志、専門職業人として高度な専門知識を得ようとしている志、それぞれの志を持って、大学院に入学されたと思います。大学院は学部よりも高度で専門的な教育、研究を行うところです。皆さん一人一人が研究者として、自らの志に基づき課題を設定し、課題を解決するために真理を探求してください。

大学院は学部よりも修学期間が短く、一時も無駄にはできません。この限られた期間をいかに充実したものにできるかは、まさに皆さんの強い志にかかっています。

大学院の教育はこれまでの学部教育を基礎にして、さらに講義や議論・実験等によって専門的な学識を高め、また課題発掘の訓練を受けることとなります。それとともに、新しい課題に挑戦して自分自身で考え抜き頭を鍛え知的に脱皮を経験するこ

とになります。それらを通して個性を伸ばし、一人の自立した人間として訓練され高度な専門家に成長します。また、未知の課題に挑戦しそれを解決することが、人生の門出の時期に貴重な成功体験を味わい自信をつけて世の中に出る足掛かりになるのです。研究にはまず新しい可能性を生み出す萌芽的・創造研究の段階があり、次いで社会的な要請に結び付けられるかどうかを模索する展開研究、そして社会性や経済性までも含んで行う実用化研究へと進むのです。創造的研究や初期の展開的な研究では、どんなにリスクが高くても視線を高くして、時には独断的に思っても自分の直観と能力を信じ、将来何の役に立つのだろうと思われても進むべき時があると思います。

大きな成果が得られ、氷山の一角のように水面上に顔を出すには、水面下に巨大な氷の塊が存在するように、長年の多くの基礎的な研究が下支えとなっているのです。研究室の片隅で小さな研究を続けることに疑問を持つ時もあると思いますが、それがやがて結実した話はよく聞きます。

昨年、ノーベル生理学・医学賞を大隅良典氏が受賞され、3年連続での日本人の受賞となりました。近年の日本人の活躍は、日本の科学技術レベルの高さの証明であり、我々科学者にとっ

て本当に喜ばしいことです。ノーベル賞受賞に至るまでには言葉では表せない大変な苦勞と長い道のりがあり、本人の努力はもちろんのことですが、やはり過去の歴史や先人たちの経験が受け継がれ、つながり、そして大きく花を咲かせる結果となったと思うのです。一見、無駄と思えることも実は何一つ無駄なことはないのです。すべてが血となり肉となっていくのです。

自らの意志を強く持ち、ひたすら研究に打ち込んで得られた経験や知識は確実に皆さんを成長させ、今後の人生を豊かにさせてくれると信じています。大学院の期間が人生で一番勉強したと胸を張って言えるくらいに打ち込んでいただきたいと思います。

本日、香川大学大学院に入学された皆さんが、これから多くのことを身につけ、夢と希望と大きな自信を持って、将来この地域を、そして日本を担うリーダーとなって活躍されることを心から期待し、私の告辞といたします。

平成29年4月3日

香川大学長 長尾 省吾